

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

Effect of proinflammatory diet before pregnancy on gestational age and birthweight: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

向炎症食が妊娠週数、出生体重に与える影響について

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Maternal & Child Nutrition

年: 2019 月: 11 巻: 頁:

筆頭著者名: 石橋 真輝帆

所属UC名: 福島UC

目的:

妊娠前の食事内容と早産の関連を明らかにすることを目的に、エコチル調査で得られたデータより炎症傾向の強い食事(向炎症)が妊娠週数に与える影響について調べました。

方法:

エコチル調査の食事摂取頻度調査票を用いて、食事の抗炎症もしくは向炎症の程度の包括的指標となる「食事由来炎症能」: Dietary inflammatory index (DII) を計算しました。DIIの値により参加者を4群(Q1-Q4)に分類しました。ロジスティック回帰分析を用いて、共変量を調整し、DIIと早産の関連について調べました。

結果:

除外基準の症例を除いた83,329人の妊婦を解析対象としました。参加者のDIIの範囲は-6.16から5.80でした。DIIが最も高いQ4群は、有意に妊娠初期血の白血球増多が認められました。DIIの値が最も低いQ1群をベースラインとするとQ4群における37週未満の早産、2500g未満の低出生体重のリスクはそれぞれ1.3倍、1.1倍増加することが明らかになりました。

考察:(研究の限界を含める)

本邦で前向きコホート研究を用いて、包括的な食事内容と妊娠帰結を報告した初めての研究です。エコチル調査において食事頻度調査票を用いた妊娠前DIIの有効性はまだ示されていません。また、今回の食事摂取内容は妊娠初期時に過去一年さかのぼって食事内容を問うために、思い出しバイアスが存在する可能性があります。妊娠前の食事によるDII値は妊娠初期の母体白血球数と関連していました。

結論:

妊娠前の向炎症食の摂取は早産と関連を認めました。今後妊娠前の食事内容の啓発により早産のリスクが下がる可能性が示唆されました。